

# 令和2年度自己評価公表シート

令和3年3月31日  
学校法人 玄海学園  
貝塚幼稚園  
園長 庄 司 誠

## 1、本園の教育目標

○総目標 ひかりのこども

○教育目標

- ①心身共に健やかなで明るくのびのびした子ども
- ②友達と仲良く遊べる子ども
- ③情操豊かで素直な子ども
- ④よく考え根気強く最後までがんばる子ども
- ⑤ありがとう、ごめんなさいが言える子ども

○教育方針

強く・正しく・やさしく・愛らしく・やる気・元気・根気を育てる教育

以上の教育目標を掲げ、幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し思考する過程を大切にしたい教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と充分にかかわって展開する生活がなされるように配慮し、逞しくそしてしなやかな心と体を持った21世紀の日本を支える人間力を身に着けた子どもを育てていく。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

課 題	具体に取り組むべき内容
五感に働きかけた保育の充実	10年間にわたるアイランドシティへの園外保育から得られた成果を踏まえ、また子ども環境管理士である森田先生との連携を生かし、今後も継続、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう更なる工夫・検討・実施を行い保育の質向上に努めていく。
食育への取組	11年間の食育活動の成果を踏まえ、PDCAサイクルを通じた質の向上を行っていく。またNPO法人食育推進ネットワークとの連携を通して、本園「食育」の更なる社会的周知を実現していく。
CSR 事業部門からのエンブランディング化	沢山の資格や能力を持った教員の外部派遣を通して園の更なるブランディング化を図っていく。
保育研究の実施	教職員の研鑽を高めるために保育学会への参加、発表を考えていきたい。また全日本私立幼稚園連合会主催の研究大会への教諭参加を図っていきたい。
教育環境の充実を図る	沢山の個性を持った子どもたちに対応し、インクルーシブ保育の実践を行うことにより、きめ細かい配慮が出来る環境を整える為に正職教員の増員を行う。
園環境の整備	通園バスの更なる安全運行のために大型バスにドライブレコーダーの設置、新型コロナウイルス感染症等の具体的な対策として全クラス保育室に「医療用物質生成器」の設置を行っていく。
園業務の効率化	教員の増員を行うことにより、マンパワーの有効活用も含め、園業務の変革、効率化を図り、労働時間の短縮実現を本年度も課題とする。
カリキュラム・マネジメントの見直し	一昨年度からの新幼稚園教育要領に沿い、保育内容の大幅な見直しを行いカリキュラムの再編成を行い実施することを重点目標と考えたい。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
五感に働きかけた保育の充実	<p>アイランドシティへの園外保育の実施は年長 12 回、年中 13 回、年少 13 回と毎月 1 回以上実施することができ、その時期その時期の植物、草花、生き物に触れ、五感をフルに使って自然環境に親しみ、沢山の感動体験を行って参りました。毎回違う表情を見せる自然に対して好奇心を掻かれ心も体も解放され、主体的に外界に関わっていく姿、野を駆け回ったり、芝を転げ回ったりする姿は解放感に満ち溢れ子どもたちはとてもいい表情をしていた。また、池の中を散策し沢山の生き物と触れ合う機会を通し、命の大切さ尊さを大いに感じていた。このような活動計画を入れることで環境を生かした保育の質向上が図れた。特に本年度も年長組や年中組の子どもたちが辞典を持って生き物を調べたり、関心を寄せたり、園に生き物を連れて帰り、教師と一緒に育てていくことで命の大切さをより鮮明に体験したと思う。</p>
食育への取組	<p>11 年間の食育活動の成果と共に、クラス担任との情報共有の時間を設け、新たな年間指導計画の見直し作成を行った。コロナ禍の中、調理体験を行うことはできなかったが、出来ない工夫した 5 歳、4 歳、3 歳の発達段階に合わせた食育活動を実施する事ができた。本年度も PDCA サイクルによる保育の質向上を図ったおかげで年度末の保護者アンケートから目に見える成果をあげることができた。また、食育担当教諭の「食育ブログ」を通して保護者への発信、地域の方々への発信により当園の取組に対する理解も深めることができたと思うが発信内容を更に検討する必要があるように思う。保護者の方々に対する食育活動の機会「まあまあずルーム」や「食育参観の実施」は新型コロナウイルス感染症の為実施することが出来なかった。NPO 法人食育推進ネットワーク福岡との連携はやはり新型コロナウイルス感染症の影響により講演会等の開催が出来なかった。</p>
CSR 事業部門からの園のブランディング化	<p>一昨年度より CSR 事業部門を立上げ、園のブランディング強化を行い外部への貢献を図ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により外部貢献が出来なかった。</p>
保育研究の実施	<p>教職員の研鑽を図るために保育学会や全日本私立幼稚園連合会主催の研修参加を考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により断念したが、福岡市私立幼稚園連盟主催の「教育課程研修」に 2 名の教諭を参加させることができ学んだことを教諭同士で深め合うことができ、日々の保育実践に行かせたと思う。</p>
教育環境の充実を図る	<p>沢山の個性を持った子どもたちに対応し、インクルーシブ保育の実践、きめ細かい配慮が出来る環境を整えるために正職職員を増員した。クラス担任だけでは行き届かない面をサポート・カバーし、子どもたちに対してきめの細かい対応を行うことができ個々の個性を大切にしたい個別の成果を上げることができた。</p>
園舎環境の整備	<p>通園バスすべてにドライブレコーダーを設置したおかげで、録画映像をもとに運転手への安全指導が有効に行うことができた。また白バス事故の際には、ドライブレコーダーの映像をもとに保護者への事故説明、また保険会社との過失割合の合意に大いに役立てることができた。また、新型コロナウイルス感染症の対策として、全保育室及びホールに医療用物質生成器を導入したことにより、園内での感染者の発生を大いに防ぐことができたと思う。</p>
園業務の効率化	<p>マンパワーの有効活用も含め、園業務の変革、効率化を図り、労働時間の短縮実現を最優先課題とし、結果、少しずつではあるが労働時間の短縮、教職員一人ひとり年 5 日以上の有給取得が実現できた。</p>
カリキュラム・マネジメントの見直し	<p>本年度、カリキュラム編成リーダーを選任し、園内研修を通して現幼稚園教育要領に沿った年間カリキュラムの再編成を行うことができ、充実した保育実践を行うことができ、教師自身の保育実践の「力」の向上、保育実践の成果を測れたと思う。</p>

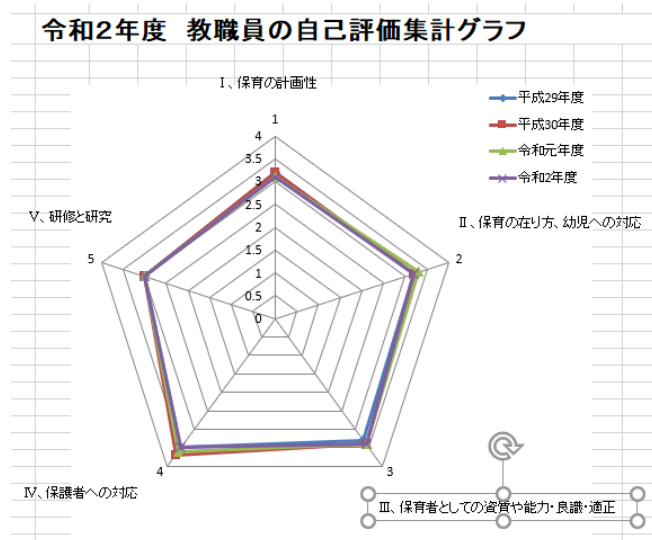
#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、4月当初に園長作成の令和2年度事業方針「Let's make the future together」を全職員で確認、職員全員に本年度取り組むべき課題や方向性を示し取り組んできた。職員一人ひとりの自己評価も踏まえ取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを具体的に実践する礎とすることができた。

#### 5、今後の取り組むべき課題

課題	具体に取り組むべき内容
五感に働きかけた保育の充実	11年間にわたるアイランドシティへの園外保育から得られた成果を踏まえ、また子ども環境管理士である平島（旧森田）先生との連携を生かし、今後も継続、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう更なる工夫・検討・実施を行い保育の質向上に努めていく。
食育への取組	12年間の食育活動の成果を踏まえ、PDCAサイクルを通じた質の向上を行っていく。コロナ禍における保護者の方々に対する食育活動の機会「まあまあずルーム」の開催方法を検討・実施する。またNPO法人食育推進ネットワークとの連携を通して、本園「食育」の更なる社会的周知を実現していく。
CSR 事業部門からのエンブレディング化	沢山の資格や能力を持った教員の外部派遣を通して園の更なるブランディング化を図っていく。
保育研究の実施	コロナ禍ではあるが、機会があれば教職員の研鑽を高めるために保育学会への参加及び発表を積極的に考えていきたい。また全日本私立幼稚園連合会主催の研究大会への教諭参加を含め、福岡市私立幼稚園連盟主催「教育課程」への研修機会の参加を複数名出していきたい。
教育環境の充実を図る	引き続き沢山の個性を持った子どもたちに対応するために、フリー教諭の人数を充実させインクルーシブ保育の実践を行うことにより、きめ細かい対応を行っていく。
園環境の整備	コロナ禍における保護者への発信・教諭リモートワークへの対応・ITされたデータの安全な管理など、IT環境整備を行う必要がある。コロナ対応のための教職員の負担軽減のための備品整備を考える。
園業務の効率化	教員の増員を行うことにより、マンパワーの有効活用も含め、園業務の変革、効率化を図り、労働時間の短縮実現を本年度も課題とする。
カリキュラム・マネジメントの見直し	新幼稚園教育要領に沿った、カリキュラムの再編成を行い充実した保育実践を行い「子ども主体の保育」を定着させる。

#### 6、教職員の自己評価集計

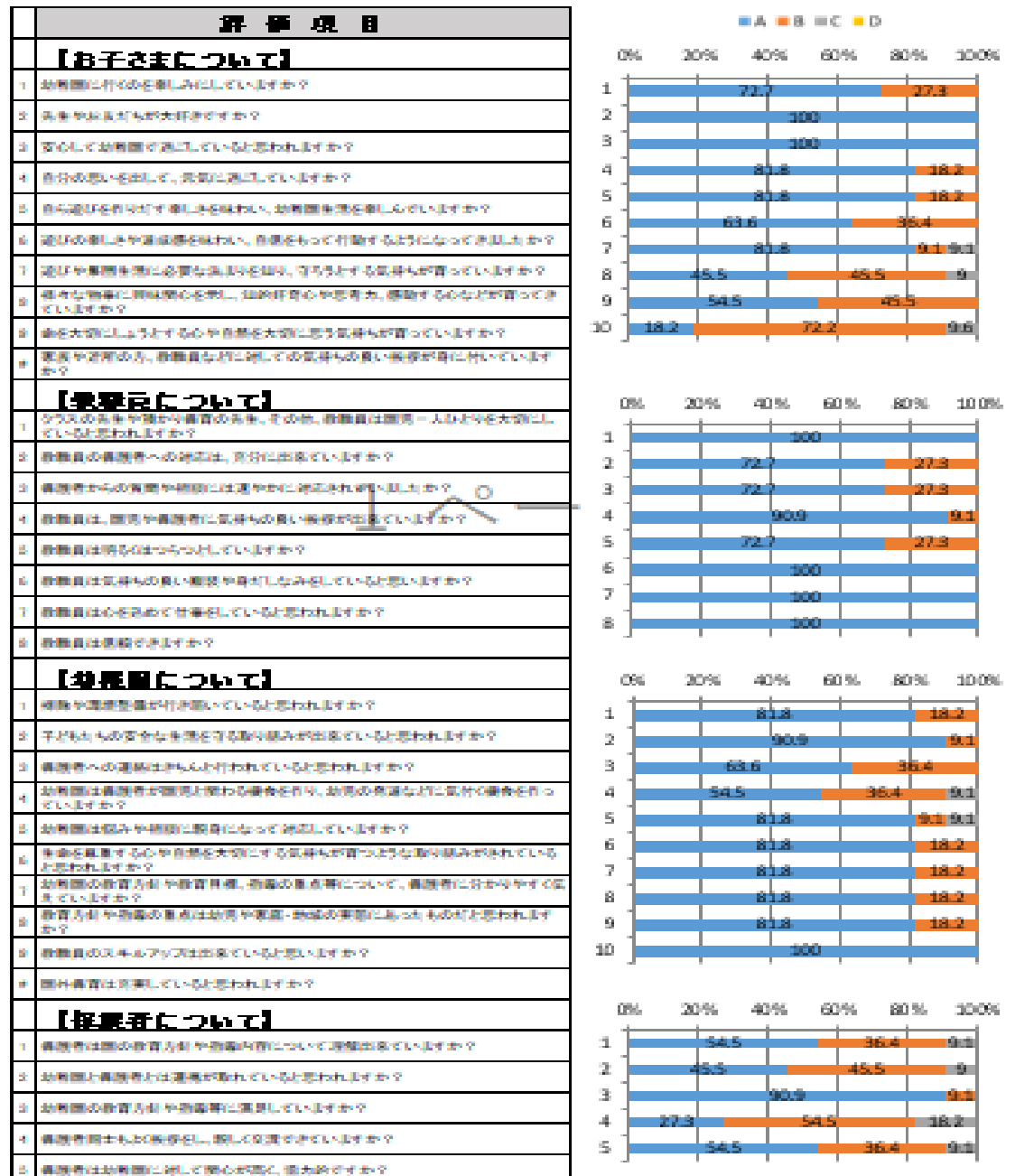


## 7、学校関係者の評価

### 令和2年度 教育や運営に対するアンケート集計結果

対象者…令和2年度 母の会役員の方々

A: 満足されている B: ほぼ満足されている C: 取り組まれているが成果が十分ではない D: 取り組みが不十分



園の教育方針に沿い、園長の事業方針が明確化され、教職員一丸となって教育活動に従事していることがよくわかり、特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

## 8、財務状況

公認会計士監査により、適切に運営されていることが認められている。